

## 建設常任委員会

### 《愛媛県西条市》

#### アクアトピアの取り組み

西条市の市街地中心部を流れる観音水から陣屋跡までの観音水系は湧水の豊富な川として市民に親しまれており、昭和六十二年から平成元年までの四十年で約二・四キロメートルの区間において公共下水道の雨水事業として自然石による護岸改修や緑地整備を実施しました。その結果、平成三年度には水の郷百選にも認定されています。

観音水系を整備したことで、市街地にはコイやアユがすむ清流が復活し、散策道や親水デッキ等を整備したことにより快適な水辺空間が創出されています。また、整備事業完了後も美しい水辺を守るため、地域住民による清掃奉仕活動などが継続して行われ、アクアトピア水系を中心とした水辺空間と共存する都市機能の形成に重要な役割を果たしています。また、NPO法人等によるウォーキングラリーやスケッチ大会、自然観察会、カヌー教室など、

市民が水に親しむことができるさまざまな活動が行われていました。



観音水系を視察する委員

### 《愛媛県松山市》

#### みんなで歩いて暮らせるまちづくり(街路整備)

松山市では歩いて暮らせるまちづくりを進めるに当たり、基本的な考え方として、①生活の諸機能がコンパクトに集まった暮らしやすい街づくり、②安全・快適で歩いて楽しいバリアフリーの街づくり、③街中に誰もが住める街づくり、④住民との協働作業による持続性のある街づくりの四点を掲げ、単に歩きやすい道路を作るだけでなく、コンパクトなまちの形成やコミュニティーの

形成なども狙っています。

#### (主な整備事例)

●繁華街から松山城ロープウェイまでを結ぶ通称「ロープウェイ通り」では道路空間を再配分し、もともと二車線の一方通行だった通りを一車線に減らし、歩道を拡幅したほか、歩道のバリアフリー化や道路付属物(照明など)の修景、車道をスラローム状にすることで車の速度を落とし、歩行者が安全に回遊できるように整備していました。その結果、整備前と比べ歩行者数が増加するなど、観光地としてのにぎわいが戻ってきたとのことでした。

●道後温泉周辺では、以前は本館正面を車道が通っていたため、歩行者の回遊動線と車の動線が錯綜していました。が、主動線を変更し、車と歩行者の動線を分離して本館正面を広場とすることで安全な回遊動線を確保するなど、本館周辺での観光客の滞留空間を創出していました。

## 議会運営委員会

### 《新潟県燕市》

#### 議会棟の設備について

燕市は平成十八年に一市二町が合併し、現在の人口は約八万四千人、議員定数二十四人で、新庁舎は平成二十五年に落成しています。地上四階建てで、議場及び議会関連諸室は四階に集約配置されています。主な特徴は、エレベーターから最も近い場所に議場傍聴席入り口を設けていること、議場及び議会関連諸室の壁を一部ガラス窓にし、明るく開放的かつ市民に身近に感じられる環境としていること、議長室などの応接セットは旧庁舎時のものを利用してのことなどです。

使用してみても良かった点は、本会議のインターネット中継ができるようになったことや、電子採決システムの導入により、各議員の議案に対する賛否の状況がわかりやすくなったことでした。市民サービス用の議会中継を視聴できるモニターはエントランスと傍聴席付近のラウンジに設置していました。

## 《富山県黒部市》

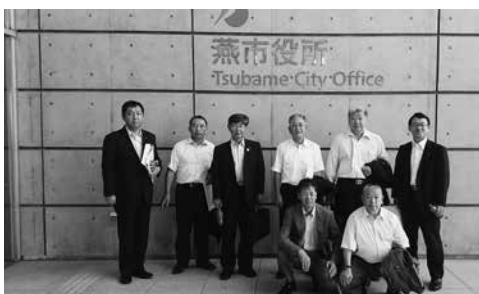
### 議会棟の設備について

黒部市は平成十八年に一市一町が合併し、現在の人口は約四万九千人、議員定数十八人で、新庁舎は平成二十七年に落成しています。地上五階建てで、議会の独立性確保のため議場及び議会関連諸室は五階に集約配置されています。主な特徴は、傍聴席入り口は燕市と同様のほか、議場の壁に県産材の装飾を施していること、正副議長室に応接セットではなく、会議用テーブルを設置し各種協議に活用していること、応接セットやロッカーなどは旧庁舎時のものを利用する一方、職員の間やイスは市民の目に触れる機会が多いことから、新しい建物とのバランスを考慮し新品を使用していることなどです。

また、昼食時に職員が自席で食事することを禁じており、休憩時間を三段階に設定し休憩室や食堂の利用を徹底しています。なお、黒部市庁舎は当市と同じ設計者によるものであることから、イメージの具体化にも役立

ちました。

今回二市の議会棟を視察しましたが、議会棟に求める細部の機能は各市議会によって異なります。現在求められる機能はもちろん、この先求められてくることへの対応も含め建設に臨まなければならぬと再認識しました。また、議会棟に関することは議会に携わる者にしかわからない部分も多々あることから、建設を担当する課に任せきりにせず、議会機能を十分に発揮することや、議会基本条例に掲げているひらかれた議会の推進に向け、遺漏のないよう対応していきたいと考えています。



燕市役所にて